分野別意見交換会・報告書

開催日時	平成２７年１月２１日（水）　１０時００分　～　１２時００分	
開催場所	生涯学習総合センター　３階　研修室３	
出席議員	出席者	長谷川光雄、渡部誠一郎、成田芳雄、斎藤基雄、佐野和枝、大竹俊哉、古川雄一
参加者	別紙のとおり	
主な意見 提言事項	**【参加者発言】** ○気になった点を申しあげる。報告を受け、分科会の中でも一番の要の会なのかと感じた。 データの中で右肩下がりの事だけ載っているが、減少しているから問題と結論づけるのではなくて、例えば税収は減少してないとか、実はそれぞれがやっていけているとか、そういう視点での分析が欠けているのかなと考える。 第１、第２課題のなかで、突然、「住民福祉の向上」が出てくるのが理解できない。どのような解釈をすればよいのか。議会側で想定されていることがあれば聞きたい。また、東京の先進事例の報告の中で、どの程度の予算規模で条例制定し、運用しているのか。本市で実施する場合のシミュレーションはあるのかお聞きしたい。また本市の既存条例制定について、これまでの効果や市議会の評価について伺いたい。 **【議会発言】** →（最後の質問から申し上げる。大田区や町田市などについて、条例を制定している自治体の中でも、成功事例や失敗事例などがあるがその評価はその自治体のことである。 いままでの本市の既存条例の経験から言うと、制定すると審議会などを設立するが、設立してしまうとそこで終わってしまう。開店休業状態になってしまう。そうではなく議会が提案する地場産業振興基本条例の中の産業振興会議は恒久的にやっていかなければならない。それには調査、旅費等一定の予算が必要となる。ただ産業振興会議は事業をやるわけではないので、予算はそんなに必要ないと考えている。 また、産業振興会議には金融機関が入ることが大事。金融機関は経済については一番の情報と理解を持っており、より細やかな経済状態がわかる。金融機関から情報提供、アドバイスを受け、行政が動く。（墨田区は職員	

	が汗をかいている） また、若松の規模では木材を使って家を建てるのが年間７０件位。会津の木材を使って家を建てる際、壁も大工も連携をしてやれば活性化につながる。知恵を出し合うことの連携が重要である。 またまちづくりについて、神明通りや大町に活気がないのは、魚屋や八百屋がないことである。かけ声、会話が活性化となる。活性化には会話が必要だ。 市の財政について、借金は一般会計で約４３０億くらい。借金はあってもやるべきことはやらなくてはならない。福祉の予算については、扶助費が年々増加している。） **【参加者発言】** ○資料に記載されているデータを基に聞いた。店舗の減少、人口減少しているが税収は減っていない。商業ベースでの考え、委員会の中での考えがどうなのかが必要ではないか。 そのようなことが欠落しているのではないかと思った。 福祉について聞いたわけではなく、この文章のなかで住民福祉とはどういう位置づけなのか聞きたかった。 産業振興会議を開催する上での予算的なものをきちんとシュミレーションすべきだと考える。私達が会議に出席する場合でもコストはかかる。 **【議会発言】** →（住民福祉向上が突然でてきていることについては、地方自治法の中に、行政の努めとして住民福祉の向上がある。委員長が先ほど申し上げたとおり、広い意味をもって住民福祉の向上を上げている。その役割が行政に求められている。） **【参加者発言】** ○今後の条例制定に向けて、どのようなシミュレーションをしているのか。 またこのような場（意見交換会）は今後もあるのか。 **【議会発言】** →（私どもの任期は８月６日までである。本日は行政側にも出席を頂いており、今日の議論を今後整理し、当局に申入れをする。また開催するとは明言できないが、任期内には方向性を持っていきたい。）

	【参加者発言】 ○農業従事者は半分以上が高齢者であり高齢化が進んでいる。出来れば、もう一回くらい若い世代の人たちとの意見交換会をやってほしい。若い世代の意見、後継者の人の考えをもっと取り入れるべきである。 **【議会発言】** **→（参考意見として受け止めます。）** **【参加者発言】** ○農業の担い手育成を行っている。この条例は理念条例ということで、会社で言うと企業理念を作ることなのかと思う。これを策定しようとすることは評価したい。 第１の課題、第２の課題がわかりづらいとのお話もあったが、それぞれの課題が連携するものと考える。 また好循環のサイクルが生まれることを前提にしているが、具体的に結びつきにくい。高付加価値をつける、また生み出したものをどうするかが問題である。 生み出してもどういう所に売っていくのかが重要である。行政指導・支援のあり方が必要である。域外、外貨をどう持ち込むのか、どのようにアプローチするのか、理念条例にはそのような一言を入れてほしい。 ドラスティックに変わるような理念条例を期待している。 こんな時代でも農業をやりたいと思っている若者が年間２０名程いる。首都圏からも年間５,６人の若者が農業をしに来ている。 会津の農業の未来は明るいと思えるような施策にしてもらいたい。また販売先の支援等も盛り込んだそのような条例にしてもらえるとありがたい。 **【議会発言】** **→（今の話をするために産業推進会議をつくる必要があると考える。さまざまな意見を出して行政に要請をする。皆さんの知恵を出して、皆さんが良くなるような方向性、施策を出すための産業振興会議の設置が重要と考えている。議会は皆さんの声を行政に届ける。）** **【参加者発言】** ○まさにそこから先がアクションになると考える。その時の我々が意見を述べる場があればありがたい。基本条例があることで、その場が担保できるような条例であってほしい。

	【議会発言】 →（そのことについては、委員長が申し上げた通りである。アクションを興すための産業推進会議。そのことを条例に位置づけし、行動の担保にしていくのが目的である。） **【参加者発言】** ○会津若松市には１万２,０００㌶の民有林がある。森林の持つ多目的な役割、産業の方向付けをしてほしい。またその多目的機能のあり方、充実を条例の中にいれてほしい。要望をしたい。 **【議会発言】** →（要望として伺います。） **【参加者発言】** ○地域経済活性化に向けては、外部からの持ち込みか、あるいは地域内にある開発なのか、発展なのかをまず伺いたい。 **【議会発言】** →（域内経済を発展させることである。本市経済の現状として、年間４０億は域外に出ているとの話がある。例を上げれば、お土産などの製造元をみると、他市で製造している。他でつくったものを会津で販売して、そのお金は製造元へいってしまう。可能な限り地域内で製造し、会津に卸し、販売することが域内収支をあげることになる。域内収支をいかに高めていくかが大事である。） **【参加者発言】** ○域内、私の言葉では内発ですが、そうした場合に開発とかあるいは発展とかもあることでよいのか。 **【議会発言】** →（当然、内発も含め開発、発展といった企業誘致や外部のことも考えなくてはならない。） **【参加者発言】** ○委員長の話の中で、あんこ・小豆の話が出された。第１課題の好循環サイクルの中で地域の連携が重要になると考えるが、その時の産業振興会議

	の招集の範囲が重要である。これまでも連携のための会議はさんざんやってきているが、その経験からも難しさを感じている。 商業、工業、農業の分野の方と企業の間で、さあ連携して取り組んでくださいと促してもなかなかうまくいかない。財はこれ、テーマはこれといったことを決めていかないとまとまりのない会議で終わってしまう。経験上から招集範囲とテーマを持って取り組んでほしい。米の問題、その消費をどうするか、学校給食など、また消費宣伝をどうするかなど分野は数多くある。 そのような分野も点で見るか、面でみるか、いろんな考えがある。その辺を考えて頂き提言をしてほしい。 **【議会発言】** →（要望として伺います。） **【参加者発言】** ○酒造組合などと合同での意見交換会をしたかった。 加工米などの話をしたかった。 酒造組合、蔵元からは酒造好適米「夢の香」を増やしてほしいとの要望がある。 蔵元は使いたい、農家も作りたいが種が足りない。横のつながりのために現場の人たちが集まって話すこと、いろんな業種が集まれるための産業振興会議、振興条例を考えるといいと思う。 **【議会発言】** →（平成２１年１０月に農業団体、商業、観光団体等、一緒に分野別の意見交換会を開催した経過にある。ただ今日は、午後から観光、商業団体の方々との意見交換会を開催する。今日は別々の開催となったが、それぞれのご意見を伺って、条例制定に向けて推進していきたい。） →（さまざまな業種間の連携を例えば、商談という形で進めれば、産業振興会議という大きな戦略本部の中でどのようなマッチングができるのかという、さまざまな可能性もその中で考えていくイメージで、地場産業振興基本条例がそのきっけかけになればとの考えで今日の説明会である。） →（酒米について、先月に会津清酒促進条例が制定された。（通称乾杯条例）条例制定については、会津産米の酒米についても議論した経過にある。会津産米の利用促進についても大きな問題であり、今後産業振興条例の中でどのような表現をしていくか、振興会議の中でどのように生かしていくかが大きな課題と考えているため、しっかり取り組んで行きたい。）

	【参加者発言】 ○産業を興して振興するにはバラバラでは進まないと思っている。進めていくには議会の取り組みはいいことと考える。県のファンドについて県で推進すると言っていたが、手を挙げた企業に対して、県がお墨付きをつけるとしている。 事業を起こすにはお金がかかる。その資金繰り等は個人ではなかなか難しい。個人的な信用では難しい面がある。起業したいと考えている人に行政からのファンドのお墨付きがあれば地域の事業は活性化する。 多くの人の小さなお金を集めれば事業は前に進む。会津の活性化にいい方法はないかと考える。資金提供の対策が必要である。ぜひ活性化のために進めてほしい。 **【議会発言】** →（要望として伺います。） **【参加者発言】** ○輸送にはトラックが必要であるが、運転手がいない。物流のきめ細やかな対応に苦慮している。大型車で一台にまとまるとよいが、半分空きの状態で輸送すればコストがかかる。 流通において、安定供給等どうするのか、わかりやすい文言をいれてほしい。 **【議会発言】** →（要望として伺います。） **【参加者発言】** ○木材協同組合も設立から５０年になる。 自分たちの組織を変えるのも５年以上もかかり大変だった。組織が若返ったところ売上が上がった。若い人たちが働ける場、話し合いの場が重要であり、生活する上でのセーフティネットがあれば、なお良い。とりあえず変えてみようの考えが重要である。 地元の物を使いたいといった生産者・消費者がいることは確かである。あらゆる分野が地元の物を使う、一致団結すること、広域的な連携を図ることなど、大きな意思表明だけでもあればありがたい。また若い人たちに声をかけてほしい。その辺も盛り込んでほしい。 **【議会発言】** →（要望として伺います。）

	【参加者発言】 〇会津若松市の域内だけではなく、会津は一つの考えでやってほしい。 会津若松市が会津全体のリーダーとなる振興条例になれば、会津地域全体がいきいきとしていくのではないか。その辺もお願いしたい。 **【議会発言】** →（要望として伺います。） **【参加者発言】** 〇農業従事者は５５歳を超えている。あと５年、１０年すればますます高齢化、担い手不足が進む。誰が農業を守るのか。農業も産業化して守っていかないと地域は守れない。このことが条例制定に当てはまるかわからないが、その辺を踏まえて取り組んでほしい。 **【議会発言】** →（要望として伺います。）